

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)興戸駅前学生マンション新築	階数	地上5F
建設地	京都府京田辺市興戸和井田9-1	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、法22条地域、第3種	平均居住人員	110 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,320 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2010年4月 予定	評価の実施日	2009年6月30日
敷地面積	2,004 m ²	作成者	衛藤 年幸
建築面積	802 m ²	確認日	
延床面積	3,525 m ²	確認者	〇〇〇

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		その他
総合 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 ・近鉄興戸駅前近くには同志社大学のキャンパスがあり、学生専用のマンションとして計画を行う。 ・同駅は学生の利用が多く、発展途上の環境でもあるので、同志社を意識したシンボリックで周辺環境に調和した計画を行う。		注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・通常よりもバルコニー(L=1350)の出を広くとることで、日射を軽減。	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・内装材などは防汚性のある材(例:床、塗り床=ふき取りのみの清掃)の使用。	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・30%以上の緑地を設け、地表面温度の抑制に考慮している。
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・共用部にはLEDを採用し、省エネを考慮している	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・有害物質を含む材料を使用していない。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・建物形状をシンプルにすることで、周辺環境(風害など)に悪影響を極力軽減している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency (建築物総合環境性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい